

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 明保小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 99人

② 算数 100人

③ 理科 101人

5 留意事項

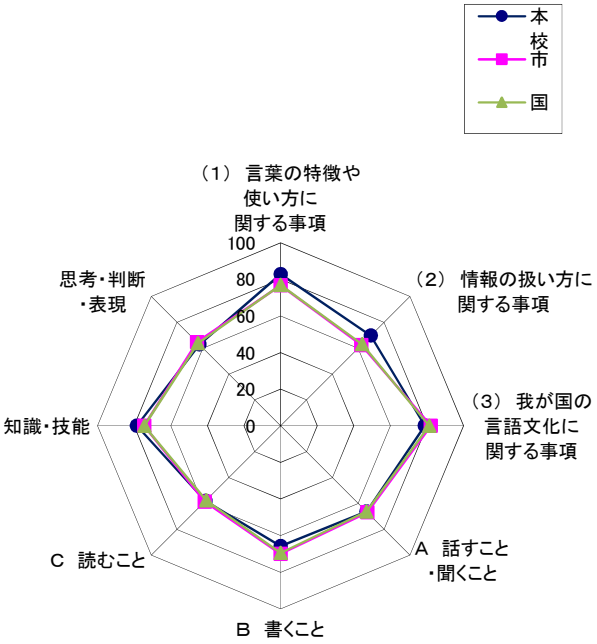
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立明保小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	82.8	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	69.7	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.8	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	66.3	67.0	66.3
	B 書くこと	65.7	70.0	69.5
	C 読むこと	58.1	58.6	57.5
観点	知識・技能	78.5	74.5	74.5
	思考・判断・表現	62.8	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

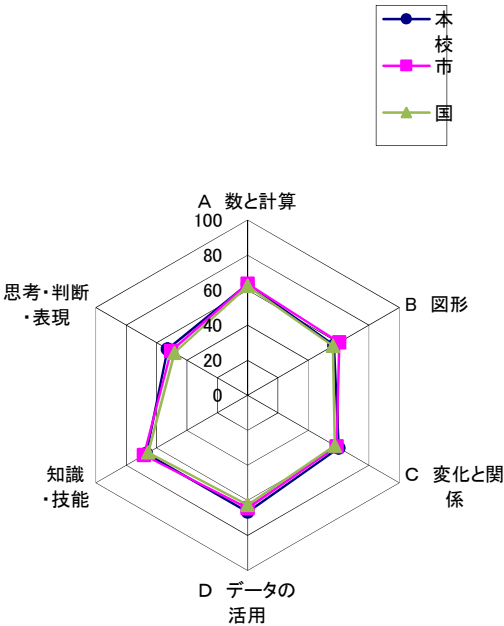
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国と比較して上回っている。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、全国の平均に比べて大きく上回っている。しかし、無回答率も高い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、今後も効果的な指導法を工夫し、個別に支援するとともに、AIドリルや漢字スキルを繰り返し活用しながら文章内で正しく使えるように習熟を図る。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、全国と比較して上回っている。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う問題では、全国の平均より上回っている。	・与えられた資料から分かる情報について正しく読み取り、それらを使って考えることは他教科にも通じる学習の柱と考えられる。教科書をよく読み、文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えて活用したりすることができるよう継続して指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国と比較して下回っている。 ●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる問題では、全国の平均より下回っている。	・読書の際には、感動した言葉や、新しい考えなどを記録に残すなどして、読書の意義をより強く実感できるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国と比較して同じである。 ○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、全国の平均より上回っている。	・今後も授業の中で、自分の考えと話し手の考えを比較しながらまとめる活動を取り入れ、しっかりと自分の考えを出せるように指導していく。
B 書くこと	平均正答率は、全国と比較して下回っている。 ●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題では、全国の平均より下回っている。	・単元の中で自分の考えを伝える場面を設定するなどし、簡潔にまとめたり詳しく説明したりすることができるようにする経験を積ませる。 ・書くことに対する抵抗感を軽減できるように、行事などを実施した後などには自分の思いを書く機会を作り、日常的に文章を書くようにする。
C 読むこと	平均正答率は、全国と比較してやや上回っている。 ○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる問題では、全国の平均よりやや上回っている。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題では、無回答率が高い。	・資料や図表から得られた情報を整理したり、文章中の大事な言葉や文を読み取ったりする活動を取り入れ、継続的に指導していく。

宇都宮市立明保小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	63.4	63.6	62.3
	B 図形	57.0	60.4	56.2
	C 測定	57.0	56.9	54.8
	C 変化と関係	60.0	58.6	57.5
	D データの活用	66.6	64.4	62.6
観点	知識・技能	66.8	68.3	65.5
	思考・判断・表現	52.7	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

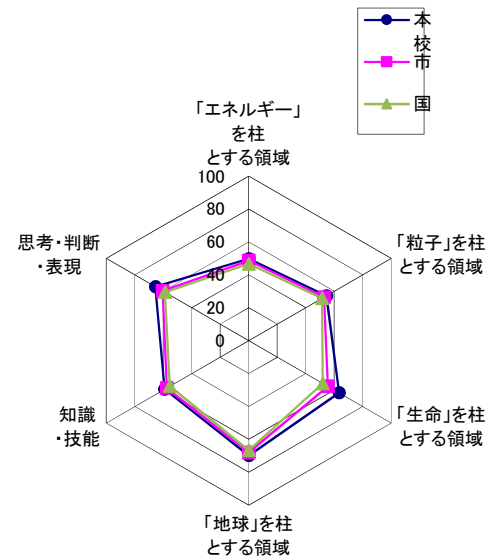
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国と比較してやや高い。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出す問題の正答率は高い。 ●小数や分数の加法についての問題は、無回答率が高い。	・今後とも文章題については、授業の中で図に表す経験を重ね、立式の意味を考えて問題解決できるようにしていく。 ・計算ステップアップやドリル等を活用し、基本的な計算が正しく解けるよう練習を継続するとともに、計算の手順が理解できるよう、習熟度別学習等を生かして個に応じた指導の充実を図る。
B 図形	平均正答率は、全国と比較してやや高い。 ○基本図形に分割することのできる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて説明する問題の正答率は高い。 ●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて作図する問題の正答率は低い。	・図形の特徴と名称が正確に理解できるよう、授業の中で適宜復習をしたり、ドリル等を活用して習熟を図ったりして定着を図る。 ・実際に作図する作業を丁寧に指導し、定着を図る。 ・児童の状況に応じ、やや複雑な問題も解決できるよう、AIドリル等も活用し、個に応じた指導の充実を図る。
C 変化と関係	平均正答率は、全国と比較して高い。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出す問題の正答率は高い。	・関係性を読み取ったり式に表したりするよう、基本的な問題だけでなく、活用問題にも取り組ませていく。
D データの活用	平均正答率は、全国と比較して高い。 ○二次元の表から、条件に合った項目を選ぶ問題の正答率は高い。 ●棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題の正答率は低い。	・示されたデータから、表の意味を理解し、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する経験を積み重ね、苦手意識の軽減に取り組んでいく。 ・ドリル等を活用し、グラフの読み取りの手順が理解できるよう、習熟度別学習等を生かして個に応じた指導の充実を図る。

宇都宮市立明保小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	#REF!	49.8	48.6	46.7
	#REF!	54.5	52.8	51.4
	#REF!	63.4	55.5	52.0
	#REF!	69.8	67.9	66.7
観点	#REF!	59.0	57.5	55.3
	#REF!	65.5	60.4	58.7
	#REF!			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、全国の平均よりも高い。 ○乾電池のつなぎ方や電磁石の性質についてはよく理解できている。 ●3年時に学習した身の回りの金属について、電気を通す物、磁石引きつけられる物があることの知識が身につけておらず課題である。 ●電気の回路のつくり方について、実験方法を発想し、表現することに課題が見られる。	・実験を行う際には、何を調べるために、どのような条件設定で行うのかを考えさせて実験を行わせる。また、条件制御が正しくできているのかなどについても考えさせる。 ・基礎基本の定着を目指し、各単元の縦のつながりを見て、下の学年で習ったことを単元導入時に復習するなど継続指導を行う。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、全国の平均よりも高い。 ○水の蒸発、結露、温度による体積の変化についてはよく理解できている。特に、水が氷になる温度を根拠にオホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することの国の平均を大きく上回っていた。 ●水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討することに課題が見られる。	・実験のまとめを行う際には、正しい方法で実験が行われたかを確認してからまとめるようにする。 ・今までの経験や知識を基に自分の予想を立てることや、友達との関わり合いの中で実験の結果を比較したり結果の妥当性について検討をしたりする活動を行っていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、全国の平均よりも高い。 ○おしべやめしべ、受粉についてよく理解できている。 ○種子の発芽の実験での条件制御の方法や、実験結果から新たな問題を見出し、表現することがよくできている。 ●顕微鏡を操作し、適切な像にするための技術が、国の平均を上回っているが十分に身に付いていない。	・1つの事例から、「これはどうなのだろう」「このときはどうなのかな」などと、興味関心が広がるように学習を展開させていく。 ・顕微鏡などを操作する時は、できるだけ時間をとって一人で操作できるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、全国の平均よりも高い。 ○赤土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、実験の条件をそろえ、結果を基に結論を導き出し、結果から他の条件での結果を予想することができている。 ●氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したものと関連付けて、知識を概念的に理解することに課題が見られる。	・学習したことを、身近な生活経験や自然現象と関連付けて考えられるよう、単元のまとめの時に考えさせるようにする。

宇都宮市立明保小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがある」また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童は全国・県平均を上回っている。これは、自己有用感を育む場づくりと認め励ます指導の充実を図り、児童一人一人のよさを伸ばす教育の実践をしてきた成果であると考え。今後も、児童の自信につながる指導を工夫していきたい。

○家庭学習の時間について、本校で6年生の目安とする1時間以上取り組んでいる児童の割合は、全国・県平均とほぼ同じであった。休みの日に1時間以上学習している割合は全国・県平均を上回っている。今後も家庭学習に継続的に取り組むことができるよう、「家庭学習の進め方」等を活用しながら計画の立て方や内容についての指導を定期的に行ったり、「家庭学習カード」に取組内容や時間を記録させたりしていく。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか」の質問に、「ほぼ毎日」、「週3回以上の使用頻度」という回答が、全国・県平均を大きく上回っている。本校はICT機器を取り入れた学習活動に力を入れており、学習方法の一つとして児童に定着している成果である。今後も、ICT機器を活用し、主体的に学んだり表現したりできるように、情報活用能力の向上を図っていく。

○「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている」と回答した児童は、全国・県平均とほぼ同じであった。自分の考えを分かりやすく表現していけるよう、今後も、根拠をもとに自分の考えを文の組み立てを考え、分かりやすく書き表す指導の充実を図っていく。

●「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と回答した児童は、全国・県平均を下回った。予想や課題をどうやって解決できるか考えさせる活動を取り入れたり、関心のある内容を自主学習等で取り組むよう啓発したりしていく。

宇都宮市立明保小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の定着	話の聞き方、発表の仕方、ノートの取り方などの基本的な学習スキルの育成。 AI型学習ドリル等の学習履歴を活用した学習支援。	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか」では、週に3回以上と回答した割合が9割を超え、全国の平均を大きく上回っている。また、5年生までの授業で、タブレットなどのICT機器を活用することについて、文章作成や情報を整理することプレゼンテーションの作成、調べ学習などを行い、友達と協力しながら学習を進めることなどで、県や全国の平均を上回っている。「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」では、肯定的回答が県平均をやや下回っている。「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、組み立てなどを工夫して発表していましたか」では、肯定的回答が64.1%と県や全国の平均を下回っている。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善	「宇都宮モデル」(はっきり・すっきり・じっくり)に基づき授業のねらいを明確にし、課題解決の過程を重視し学習のまとめや振り返りを行うことで、学習内容の定着を図っている。	「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしなが、自分の考えをまとめる活動を行っていた」では、肯定的に回答した児童は8割を超えており、県や全国の平均よりも上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、書くことの領域の「目的に応じて簡単に書いたり、くわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書いていますか」に対して、県や全国の平均正答率とほぼ同じであった。	条件に応じて自分の考えを書く活動の充実	様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する活動や、複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり、メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また、自分の考えを書く際に、字数や使用しなければならない語句の条件を段階的に増やすなどの提示の仕方を工夫し、条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述する力を養っていくようにする。さらに、始めから完璧な解答を求めずに、児童に寄り添いながら思考の過程で励ますことで自信をもたせたり、友達のよい文章を提示して参考にさせたりし、諦めずに挑戦する意欲を高めるようにする。
質問紙調査において、「学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対し、本校の目標とする1時間以上と回答した児童の割合は56.6%で、全国より上回っているが、県の割合よりは下回っている。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	家庭学習に継続的に取り組むことができるよう、「家庭学習の進め方」等を活用しながら計画の立て方や内容についての指導を定期的に行ったり、「家庭学習カード」に取組内容や時間を記録させたりする。また、家庭との連携を図れるよう、啓発資料等を活用して保護者の意識を高められるようにする。 関心意欲を高める授業を工夫し、家庭での学びにつなげる働きかけをする。